

氏名	関岡時子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第152号
学位授与年月日	平成24年9月19日
学位論文題目	Total colonoscopyの挿入困難を起こさせる要因の分析

論文内容要旨

※整理番号	157	(ふりがな) 氏名	きまおかときこ 関岡時子
修士論文題目	Total colonoscopy の 挿入困難を起こさせる要因の分析		
<p>研究の目的 TCS 検査時に、挿入困難を起こさせる要因を明らかにし、看護的介入の方法を探る。</p> <p>研究の方法</p> <p>1、研究デザイン ①調査研究 後向き研究 ②調査研究 前向き研究 集団調査</p> <p>2、研究対象 ①同一施行医による連続したサブマリン法による TCS 被験者。期間:2005年1月～2009年12月 症例数 5112例 ②同一施行医による連続したサブマリン法による TCS 被験者。期間:2009年12月～2010年2月 症例数 100例</p> <p>3、研究方法 ①施行医が記録した TCS 記録より、年齢、性別、挿入時間、挿入部位、S 状結腸通過様式、大腸疾患名、内視鏡機種を調査し、挿入時間に影響する要因を探索した。 ②上記に加えて、TCS 回数、前投薬、検査前・中・後における最高血圧、最低血圧、脈拍、SPO₂、と、処置、憩室有無、脾彎曲通過様式 肝彎曲通過様式、介助者の操作ポイント、被検者の検査前後 VAS 値を前向きに調査し、挿入時間に影響する要因を探索した。</p> <p>研究の結果 ①2005-2009 年間に TCS が必要と認められた 5112 件について分析した。男性 2697 人 女性 2405 人 (内未挿入者 男性 4 人 女性 6 人) 挿入率は 99.8%であった。挿入時間に関係する因子として、年齢、性別、挿入部位、S 状結腸通過様式、機種、疾患名が、有意に影響していたが、その他の因子の関与も考えられた。②の前向き調査では、対象は 100 例 (男性 56 人、女性 44 人) (未挿入者 0) 挿入率 100%であった。挿入時間を従属変数とした重回帰分析 (自由度調整済み決定係数 R² 値 : 0.80) にて、脾彎曲部の挿入形態、介助者による操作ポイントは、有意に挿入時間に影響を与えていた。</p> <p>研究の考察 脾彎曲部の挿入形態は、肝彎曲部、S 状結腸部と同様、内視鏡挿入に際して腹壁圧迫介助が頻用される場所で有り、屈曲部を用手圧迫することは挿入時間を短縮し、患者に安楽をもたらす可能性があると考えられた。</p> <p>総括 今回の内視鏡挿入方法はサブマリン法で行われ、介助者が全例に用手圧迫を行った症例を対象として分析した。介助者は用手圧迫により腸管を伸ばさない、また腸管の鋭角を鈍角にすることで内視鏡挿入をスムーズに行い挿入時間の短縮を図ってきた。挿入時間と腸管屈曲部に有意な関連があることで、用手圧迫の有用性を再認識した。今後は、用手圧迫の施行有無による比較検討が望まれる。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)